

# 広がるトリ科学



国際鳥類内分泌学シンポジウムに向けて

## 早成性鳥類と晩成性鳥類の繁殖制御の意義



神作宜男教授

早成性と晩成性という用語は鳥類だけではなく、哺乳類でも使われる科学用語である。ウマやウシのように生まれた直後に個体が自ら立ち上がる種類の動物は早成性動物にあたり、ハツカネズミのように生まれた時には目も開いていない種類の動物は晩成性動物にあたる。

したがって、我々人間はどちらに属するかというところ、お分かりであろう、晩成性である。晩成性の特徴として、初期成長時に親の手助けが必要である。つまり、親による養育は繁殖行動の一部分でもあるのである。鳥類でも同様に、大きくは二つに分けることができる。ダチョウやニワトリは孵化（ふか）後しばらくすると自らでエサを探し歩き回る、あるいは親の羽の下に潜り込むことから早成性に属する。一方、ブンチョウやトキなどの鳥は孵化した際に目が開いてい

# 産業や保護、多岐に関与

麻布大学獣医学部教授 神作宜男氏



プロラクチンが孵化後の育雛行動に作用する晩成性のブンチョウ

い、羽毛に覆われていない、という点で親の手助けが必要であり晩成性に属する。不思議なことであるが、哺乳類でも鳥類でも子育てを含めた繁殖行動には同じ脳下垂体のホルモン（プロラクチン）が関与していることが知られる。プロラクチンは哺乳類では母性行動の維

また、ニワトリのよ

市民公開講座「広がるトリ科学の世界」(岐阜新聞・岐阜放送後援)は6月7日午後4時から、岐阜市長良福光の長良川国際会議場で。対象は高校生、一般。参加費無料。

＝⑬＝

## 岐阜市で6月 市民公開講座

抱卵行動の排除から野生動物の保護にまでかわる非常に重要な研究分野であると言えよう。

寄稿文、国際鳥類内分泌学シンポジウムに関する質問、問い合わせは、ISAE2012岐阜・企画運営委員の川島光夫・岐阜大学応用生物科学部教授、電話058(293)2870。メールアドレスはkawasima@gifu-u.ac.jp

